

農園通信

2025 年 5 月・6 月

発行・問合せ先：島本町農業振興団体
協議会・町民農園部会 福田

fukuda-ka@amail.plala.or.jp

鳥害対策、小動物対策

◆春のヒヨドリ(2月～4月初め)

ヒヨドリはキャベツ、ブロッコリーの葉、えんどう豆の新芽が好きです。ひどい時は葉物も食べます。
(菊菜、サニーレタスは食べない)

定住のヒヨドリと渡り(移動)のヒヨドリがいます。定住のヒヨドリは単独行動で被害も少しずつですが、渡りのヒヨドリは数十羽で来てすごい食欲で畑の好物を食べ尽くします。渡りのヒヨドリには通り道があるようで、通り道の区域は特に注意です。

対策は、防虫ネットを掛けます。

桜の花の頃になると見かけなくなります。きっと花の蜜や果実など、葉物より美味しい食べものが出来てくるからでしょう。

*ヒヨドリは日本以外での生息地の数が少なく日本固有の鳥とのこと。また鳥獣保護法で定められている野鳥なので捕獲はできません。

◆カラス…特に大玉トマト、スイカ、メロン、トウモロコシには防鳥ネットを！

頭の良いカラス。毎年悩まされます。防鳥ネットを掛けますが、実の部分だけをカバーしてもダメです。下が空いていると下からも入ってくるので、ネットの下をしっかりとめます。防鳥ネットは付けやすいものの付けにくいものいろいろです、また収穫もやりにくいと大変です。いろいろ工夫を！

農地を歩いているカラスは常住のハシボソカラスでツガイで行動し被害もほどほど。一方、地面をぴょんぴょん跳ねて大声で鳴くハシブトカラスが集団で飛来して来ることがあります。余程お腹がすいているのか、トマトだけでなくキュウリやナスまで手当たり次第に食べられます。ギャングのようです。

互いに“カラス警報”を発令しましょう。

◆小動物対策…アライグマ、タヌキ、ハクビシン、イタチ、テン

スイカやメロンには、特に下から侵入されないように厳重にネットを掛けます。下の部分は目の細かい防虫ネットで覆うのも1方法。実にコンテナをかぶせるという方法もあります。スーパーにおいてあるようなカゴでも防げるかどうか、まだ実証されていません。



4月、高浜の常住のつがいのハシボソカラスが野菜に掛けている不織布をちぎって運んでいる。巣作りに使うのかな。

5月・6月の農業用水路の清掃

東大寺4丁目の用水路清掃は5月4日(日)の8時、高浜は5月18日(日)の8時30分、尺代は6月です。その他の地域もそれぞれの水利組合から日程のお知らせが届きましたら協力をお願いします。

5月の農作業

夏野菜の植え付けがほぼ終わったころでしょうか。苗は植え付け当初は環境が大きく変わり大海原に放り出されたようなものですから、そのストレスに耐えてしばらくはじっとしています。トマトは生命力が強いので、比較的早く新しい環境でたくましく成長していきます。

ピーマン、ナスは温度が高くないと(25度程度)成長しない初期成長の遅い野菜です。(裏面に続く)

特に、販売されている苗が小さい(幼苗)時は成長が遅いです。早く大きくしようとあせって肥料を多く与えては逆効果です。成長が遅いのは個性だと思ってゆっくり待ちましょう。野菜にはそれぞれ固有の成長のスピードがあります。追肥は旺盛に成長を始めたときに与えましょう。

*夏野菜はトウモロコシ以外は虫による被害はあまり気にしなくても大丈夫ですが、ナスの初期にテントウムシダマシ(ニジュウヤホシテントウ)が付くことがあります。初期消火が大切、葉の裏をよく見て、手で潰せば大丈夫です。

*近年は暑い夏と少雨と豪雨、付き合い方が難しいですね。

(;^ω^) いよいよ夏野菜～

経験談

(Sさん)

今年は暑いので、空豆は上部の実の付きが悪い。暑さ対策も必要か。三度豆も実がなる時に温度が高いと受粉しにくくなる。【苗づくり】畑でビニールトンネルをして苗づくり。ナスビ、伏見甘唐辛子は、本葉が揃いました。網干メロン、カボチャも行けそうです。オクラは16/20粒、芽が出ました。トマトは発芽が悪いので、挿し芽を頼み、また通販で取寄せした中型を蒔き直しました。(4/22)

(Fさん)

【苗づくり】トウモロコシは3月種まき、4月定植、5月収穫というペースだと虫害(アワノメイガ)がましかたというので、3/13に家の小さいホットカーペットの上(28度)で種まき、5日で発芽しました。もう1日と思い置いておくと徒長し弱い苗になりました。2回目はピツと頭を出したらすぐに外に出したので成功です。オクラも同じ方法で4/7に種蒔き3日で発芽。しかしカボチャは温度だけでは発芽しない。太陽光が要るのか？それで夜は室内(ホットカーペット)昼間はベランダに出して半分ほど発芽、継続中。苗の値段が高い！また家での苗づくりは、いつも可愛い芽が見れて癒されます。

(Oさん)

尺代の畑では何故かモグラが多いです。順調に育っていたナスビが突然枯れることがあり、土の中には大きなトンネルを形成していました。自作の風力プロペラを動かし、その振動で追い払う対策をとっている方がおられます。また、畔板を畑の区画に畔板を深く埋めて囲って対策している方も見かけます。鶏糞を多く使用するとミミズがよく発生し、それを好物とするモグラが多く生息するとある人から聞きました。

(Sさん)

テニスコート横のファミリー農園でモグラに悩まされました。対策はなかなか効き目がありませんでした。ところが最近全く見受けられなくなりました。

(Hさん)

モグラに関して、私の愛読書の「百姓入門記」(小松恒夫)に1章があります。

畑を初めて最初の年にモグラに掘り起こされて芽が出たばかりのハウレンソウが一畝枯れたことがあります。しかし、その後ほとんどモグラ被害は無くなり、不思議に思っていた所、数年後に畑でシマヘビを見つけ理解したそうです。昆虫をカエルが食べそのカエルをヘビが食べる。ミミズをモグラが食べるそのモグラをヘビが食べる。即ちヘビは畑の食物連鎖の頂点にいる。ヘビがいるという事は豊かな自然の証拠。ヘビに選ばれた健康な土。自然農法で農薬を使わず、ミミズや堆肥でやってきた結果、モグラも避けたと言えるようです。

(Rさん)

人参、ラディッシュ、エダマメ発芽。



人参 4/30

(4/30 撮影 大玉トマトとキュウリ)



畑の食物連鎖



農園通信の
アーカイブ

